

地下水シンポジウム 未来につなぐ地下水の科学 ～水の都 西条からの発信～

9月23日に総合文化会館で、地下水シンポジウム「未来につなぐ地下水の科学～水の都 西条からの発信～」を開催しました。

西条市では、市民共通の財産である「地下水資源」を将来にわたって確保するために、総合地球環境学研究所、愛媛大学等と共同で、水に関する研究を実施してきました。

平成20年9月のシンポジウム「水のつながりを考える～ふるさと西条のおいしい水を、未来へ～」以降の研究によって明らかになった地下水の自然科学的成果を、市民の皆さんに分かりやすく発表し、本市がめざす水環境都市に向けて、さまざまな視点から意見交換を行いました。



地下水管理に向けた科学の現状と課題

総合地球環境学研究所 谷口真人教授

物理・化学的な指標を用いた調査を行い、塩水と淡水の地下水流動モデルを構築することにより、西条の地下水を可視化することに成功しました。見えない地下でつながる「共有資源としての地下水」を管理するためには、地上に住む人々の強い絆が必要です。

気候変動や水需要増大に対する表流水の代替資源としての地下水利用量が増加している中、地下水を含めた統合的な水管理が必要になってきました。かん養・流動・流出という流動系をなす地下水の科学は、見えない水を可視化することに努めてきました。特にモンスーンアジアの日本においては、地下水を「資源」としてのみではなく、「循環」としてとらえることが重要です。

世界人口の3分の1以上が水資源を地下水に依存する中、日本では西条市に見られるように、地下水と人々が共存してきたという歴史があります。



熊本の地下水と水管理

熊本大学大学院自然科学研究科 嶋田 純教授

『くまもと「水」検定』を行っています。その中でも熊本市では、地下水の水量と水質を守るためのさまざまな取り組みを円滑に進めるために不可欠な地域住民の水に対する意識を改革・啓蒙するための仕組みとして、

熊本市と周辺11市町村は、この地下水資源の持続的利用のために全国に先駆けた精力的な地下水行政を進めています。阿蘇火山山麓に広がる火砕流帯に豊富に蓄えられる地下水ですが、地下水量の長期的な低減傾向と硝酸性窒素濃度の増加という課題を抱えています。そのため市町村の枠を越えた地方行政での地下水の持続的管理をめざした対応を始めています。

熊本市と周辺11市町村は、この地下水資源の持続的利用のために全国に先駆けた精力的な地下水行政を進めています。阿蘇火山山麓に広がる火砕流帯に豊富に蓄えられる地下水ですが、地下水量の長期的な低減傾向と硝酸性窒素濃度の増加という課題を抱えています。そのため市町村の枠を越えた地方行政での地下水の持続的管理をめざした対応を始めています。

